

しかおい

議会だより

第115号



6月定例会開催 ②

一般質問 3人の議員が問う ④

相次ぐ視察 議会改革を意見交換 ⑥

まちなか会議・JA鹿追町 ⑦

■ 2012年7月25日発行

■ 発行者 北海道鹿追町議会

鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト2011
「カムイ・ノミ」 撮影者：武田美音さん（札幌市）

【E-mail】 gikai@town.shikaoi.lg.jp

【URL】 <http://www.town.shikaoi.lg.jp/>

平成24年6月定例議会は、6月8日に開会して一般会計補正予算、特別会計補正予算などの議案を審査し、全議案原案通り可決し（反対者なし）20日に閉会しました。



鹿追町の主力作物の馬鈴草の花

補正予算

1億1千8百90万円を追加し、一般会計の予算総額を58億7千3百90万円としました。

○オフセット型ポテトハーベスター導入補助金（農業振興）
1千2百万円

馬鈴薯の収穫作業には多くの労働力と時間を要するため、作付けが減少しています。高性能のハーベスターの普及により作付け面積の拡大をはかります。事業実施期間
平成24、28年度（5年）
導入計画
年間6台 合計30台
助成額
1台当たり2百万円

○全自動乗用野菜移植機導入補助金（農業振興）
2百万円

キャベツの作付け振興と作業効率向上を図ります。
○生乳生産性向上対策事業助成金（農業振興）
4百67万円

カビ毒による乳牛の健康被害を防止して、生乳生産

の維持向上を図ります。
○瓜蓊地区バイオガスタント関連予定地取得費
1百48万円
○廃屋解体撤去事業補助金（町民生活）
1百万円

景観保持や生活環境の整備、犯罪や災害の未然防止を図るため、廃屋の解体撤去費用が50万円を限度に補助されます。
○旧西原施設の修繕（施設管理）
2百57万円

北瓜蓊にある旧西原施設の宿泊ロッジを修繕して、都市や震災被災地の子ども受け入れなどで活用できるようにします。

○柏木区児童公園整備（公園整備）
5百60万円

電源立地地域対策交付金事業で児童公園を整備します。

○子ども宿泊体験交流補助金（企画）
2百万円

都市や被災地の子どもを受け入れに取り組みます。
○5月大雨災害復旧費
2千85万円

陳情

住民の安全・安心な暮らしを支える交通運輸行政の充実を求める産業厚生常任委員会提案

提出者
国土交通労働組合北海道航空部級別分会
執行委員長 桐生 寛則

震災復興と被災地対策をはじめ、①住民の安全・安心な交通運輸を国が直接実施すること②住民のための交通運輸行政確立のため地方運輸局、支局の充実等の住民の安全・安心な暮らしを支える交通運輸行政の充実を求める陳情を採択しました。

意見書として衆参両院議長、内閣総理大臣をはじめ関係大臣に提出しました。

推薦

人権擁護委員に大前眞優子氏を推薦

西科隆氏の後任の人権擁護委員に大前眞優子氏（緑町2）の推薦（新任）提案があり、これを適任としました。

意見書

基地対策予算の増額を求める基地対策特別委員会提案

基地関係市町村は、基地所在に伴う特殊な財政需要の増大等により、大変厳しい財政状況にあります。

総務省所管の基地交付金・調整交付金は、平成元年以降3年毎に増額されてきた経緯を踏まえ、平成25年度予算において増額することにも、基地対象資産の拡大と、基地周辺対策経費の所要額の確保、補助対象施設・範囲の拡大等、適用基準の更なる緩和を求めるものです。

意見書については、全会一致で可決され、衆参両院議長、内閣総理大臣をはじめ関係大臣に提出しました。

条例

環境保全センター基金の設置

5月3～4日の大雨は140ミリを超え道路や畑に被害がありました。土木施設災害や農業関係の復旧は50件のほりです。

良好であり剰余金が発生している状況です。
環境保全センター基金条例の制定により、これまで農業全般の振興を目的とする農業振興基金に積み立てていた剰余金を条例に従い、鹿追町環境保全センター基金として適正に管理運用を行うものです。

決算剰余金

平成19年度～22年度
2千4百71万円
（農業振興基金積立）
平成23年度決算剰余金
2千9百44万円
基金費積立金
5千4百15万円

鹿追町環境保全センター（バイオガスタンク）は平成19年10月より稼働し、今年で5年目を迎えています。昨年は2万8千トンの消化液を散布しており、発電は2百15万kwhとなっています。国においては、再生可能エネルギーの全量買取りを7月1日から開始し、新設と既設の電力施設からの買取りが始まりました。現在稼働している環境保全センターに関する収支は

また、鹿追町のバイオガスタンクの取り組みは各方面から高く評価されています。このため、町環境保全センターは、年間1千人



以上



町政を問う。

3人の議員が一般質問

狩野 正雄議員

水資源の確保と水源周辺の土地利用について



加納 茂議員

原発停止による節電の要請、町の対応は？



飯沼 新吾議員

今後の然別川を活かした町づくりについて



住民生活

Q 水資源の保全

A 必要な措置を行う



狩野正雄議員

(質問) 全ての生命の源である水は、私たちが安全で安心な生活を営み農業や観光などの産業が健全に発展していく大切な資源である。

道の制定した「北海道水資源保全条例」は地域の特性により推進すると

されている。

町の簡易水道の水源地は地下水を利用しているが、近年山林が伐採されたまま原野状態の土地が多く見受けられる。森林の減少は保水力や水質などへの影響もある。更に、水源周辺の土地が外国資本により目的不明の売買もあると聞く。道内における海外資本等の取得状況は。

(答弁) 吉田町長

海外資本による大規模な森林の取得状況は

1千39ヘクタールで中国、イギリス、マレーシア等による取得で、目的は資産保有や販売を目的としている。

(質問)

原野となっている土地に対して、水源かん養保安林制度の活用は。

(答弁) 吉田町長

水源かん養保安林には雨水を蓄え、ゆつくりと川に流すことで洪水や濁水を防止する働きがあります。100ヘクタール以上の流域指定で木が植生していないと出来ない。

(質問)

道と連携して取水地周辺を水資源保全地域に指

定し土地を確保する考えは。

(答弁) 吉田町長

簡易水道及び営農用水道の道条例による取水地周辺の水資源保全地域指定は必要一部指定は道に提案している。土地の確保が必要なら町が取得することも検討したい。

(質問)

原野状態の土地が町内どのくらいあるか調査して把握する事も必要ではないか。

(答弁) 桜庭農業者協議会

農業委員会が畑に隣接している山林原野の確認調査を進めている。



水源かん養保安林トウマベツ林道周辺

住民生活

Q 節電対策は

A 計画停電に対応出来るよう進める



加納茂議員

(質問) 3・11の事故以来、国内すべての原発が停止しており電力不足が懸念されている。本町での7%の節電目標達成が可能な疑問に感ずる。公共施設・各家庭での節電の方法と周知の対応は。

(答弁) 吉田町長

庁舎内での節電、計画停電に対応出来るよう、サマータム(朝7時30分)約半数の職員も取り入れ大きな支障の出ないよう進めていく。新たなエネルギーの創出を行い、エネルギーの地産地消の町づくりを進めたい。

(質問)

今年以降の節電も考えなければならぬ。発電機の対応を考える必要があるのでは。

(答弁) 吉田町長

あらゆる電気器具を止めて生活レベルを下げ



役場庁舎の節電の取り組み

ば7%の節電目標達成可能だが経済の状況を維持することも出来ない。国策として新しい電力をつくる必要がある。

今の鹿追のバイオガスパラントの発電は3百kw、90%位で動いている。これから計画しているプラントは1メガワット(1千kw)の出力を持つ発電機を設置したい。環境問題・エネルギーの創出・消化液の肥料もある。におい対策にもなる。発電電分離によって、

地方で起きた電力は地方で使える考え方も必要となる。

町づくり

Q 然別川の活用

A 必要な対応を考える



飯沼新吾議員

(質問) 然別川は昭和56年の台風12号の災害があり、膨大な費用と時間をかけ修復をした。災害から守ることが出来る川となったが、コンクリートづくめになり、自然が無くなってしまった。その後、町民の協力、町・道の事業により憩いの川としてよみがえってきた。

①今後の然別川を生かしたまちづくりは、
②鮭の稚魚の放流は、
③2度の清流日本一の看板設置は、以上3点についての考えは。



(答弁) 吉田町長

治水に取り組む一方、利水として今まで取り組んだことの継続のほか、全道一長い桜並木、化粧品柳の群生地、現在造成中の鹿追農芸公園整備と一体化した活用を検討する。また、笹川橋から鹿追橋までの堤防を一般車両が通行可能になるよう、管理者である北海道への要望を継続する。

(質問)

然別川の活用に関する検討委員会などの設置の考えは。

(答弁) 吉田町長

総合的に然別川の活用を検討する必要性からも、団体の立ち上げに関しては十二分検討する。

議会改革について意見交換

群馬県大泉町議会と意見交換

6月21日(木) 群馬県の大泉町議会改革特別委員会(引間サチ子委員長)が来町されました。

大泉町は人口4万1千人のうち6千人ほどがブラジルなどの海外出身者が居住する町であり、住民サービスやまちづくりに関する重要な認識から改革の進め方について、鹿追町議会を訪れたとのことでした。

意見交換では、

1. まちなか会議(議会報告会)の住民への周知方法
2. 住民から出された意見や質問はどのようにフォローしているのか。
3. 第三者審議会を設置した背景。など色々な角度から

らの質問がありました。

鹿追町への視察研修

議会基本条例が始まって一年、議会改革の取り組みやバイオガスプラント、花と芝生のまちづくりなど議会や鹿追町の取り組みに対して視察来訪者が増えています。

- 当別町議会 11人(5/16議会活性化、議会基本条例)
- 池田町議会 9人(6/14議会改革)
- 群馬県大泉町議会 19人(6/21議会基本条例・議会改革)
- 山形県尾花沢市議会 7人(7/3バイオガスプラント)
- 滋賀県草津市議会 5人(7/12花のまちづくり)
- 名寄市議会 10人(7/18バイオガスプラント)
- 標準町議会 5人(8/9)



群馬県大泉町議会視察研修来町

- イオガスプラント
- 福島県議会 4人(8/22バイオガスプラント)
- 大空町議会 5人(8/24議会広報広聴)

更なる町づくりに期待しています。



群馬県大泉町議会引間サチ子議員

鹿追町のみなさんこんにちは。6月21日、議会を視察研修させていただきました。町民の意見を充分に取り入れ、協議を重ねながらスピード感をもってまちづくりをしている議会、大変勉強になりました。広大な原野に馬鈴薯の花がわいく咲き、北キツネが道路に現れた時の感動は忘れられません。また、昼食の蕎麦は大変美味でした。町民と町議会が一体となり、更なる町づくりに期待しております。

第三者審議会答申 インターネット配信は早期に整備を。

7月2日、町議会議員定数・報酬及び方等審議会(第三者審議会)の安藤会長から埴淵議長に「インターネット配信」に対する答申がされました。

答申では、本会議のインターネット配信が住民の情報収集と利用に寄与すること、議員の意識向上に繋がり、最小限の経費で効果が得られるよう、早期の整備を図るべきとの判断がありました。議会では、この結果をふまえ9月定例会からの配信を予定しています。



安藤会長より答申

まちなか議

住民と議会を結び

明日の鹿追農業を考える。

JA鹿追町常勤役員と懇談

産業厚生常任委員会のお呼ばれ委員会が、JA鹿追町の第三会議室において6月30日に開催されました。

冒頭、佐藤組合長理事より「近年にない厳しい酪農を取り巻く環境があるが、出来秋に向かい作物の増産をはかっていきたい。農協、町にしかできないことがあ

る。議会とも気持ちをつづにして、町の発展のため意見交換をしたい」とあいさつがありました。

次に、JAより本年策定された第9次の農業振興計画について説明を受けました。農業振興計画は、5年ごとに作成されておりメインタイトルを「JAへの集と耕畜連携による鹿追型農業の創生」と題し最終年度の平成28年には、総生産目標を1百90億9千5百万円とするものです。

目標達成のために畑作部門においては、比較的高収益が望める馬鈴薯の面積拡大のために町と連携したオフセットハーベスターの導入、酪農部門においては農協主導でTMRセンター(牛のための飼料を混合する施設)を作り良質な混合飼料により生乳生産量を上げるなどの手法について示されました。



旧西原環境の施設

その後、意見交換に移りJAから町道北5線の整備について、農家従業員1百67名と季節雇用者2百73名が働いており、JAでも今年8戸が入居できる住宅を建築するが住宅の確保に苦慮していることについて説明を受けました。

また、町が取得をした旧西原環境の施設を農家繁忙期に、派遣労働者の宿泊施設にできないかとの要望を受けました。

農業が鹿追町の基幹産業であり、鹿追町農業の発展無くして町の発展が無いことは皆が認識しているところであり、産業厚生常任委

員会としても現状を充分認識し、委員会の活動にあたりたいと思います。



JA鹿追町常勤役員との懇談





「農地・水・環境保全向上対策」 を活用し地域を美しく！



春から初夏にかけ農村地域の風物詩となった河川清掃が、行政区・農事組合等で行われました。

農業者のみならず地域住民・自治会など幅広い参加により、農業水路などの施設を長持ちさせる手入れや自然環境を守る取り組みをしています。

中瓜幕南班の皆さんも6月15日、河川、道路等の草刈りを行いました。



中瓜幕 大久保教夫さん

中瓜幕地区では班単位で取り組んで30年以上になります。雑木や雑草はすぐに伸び、毎年のこの作業は欠かせません。台風や大雨で排水路河川の重要性を改めて考えています。

(取材・インタビュー) 武藤 敦則



ストニープレイン町からの訪問団

姉妹都市のカナダストニープレイン町から、交換留学生・友好訪問団が7月5日に来町されました。

一行は8人中・高生と4人の大人で構成され7月18日までの滞在で町内施設、各学校訪問や然別湖で行われた白蛇姫祭りの見学や管内、道内視察を行いホームステイ先のご家族や町内の人たちとの友好を深めました。



ス町訪問団長
ジュディ・ベネット 議員

今回で3回目の鹿追訪問になります。私の家庭でも3度鹿追町の人たちをホームステイで受け入れさせていただきました。

今回の訪問については、アメリカに住んでいる妹からは、福島原発の事故があって日本は放射能汚染の恐れがあるので考え直したほうが良いと言われましたが、汚染地域と鹿追町が離れていることも知っており、何よりも鹿追町の人たちと再会できることを楽しみにしてきました。

(取材・インタビュー) 上嶋 和志

編集後記

今年は春からの天候不順により農作物の生育に影響が出てるようです。一日も早い回復を期待するところです。

さて、議会基本条例が施行されて一年が過ぎ、まちなか会議等の開催も順調に進んでいます。少しでも多くの町民の声を反映出来るよう頑張っておりますので、今後ともお気軽に声をかけていただければ幸いです。みなさんの声を聞かせてください。

議会広報部会員 山岸 宏

議会広報聴常任委員会 広報部会

- 部会長 狩野 正雄
- 副部長 武藤 敦則
- 部会員 台蔵 征一
- 上嶋 和志
- 山岸 宏